

夏どりチンゲンサイの害虫防除における  
殺虫剤の土壌処理とトンネル被覆の効果

渡辺丈夫・山内正幸

夏どりチンゲンサイの害虫防除を目的に、殺虫剤の土壌処理、被覆資材による被覆および両者の組み合わせ防除効果について1986年と1987年の7月中旬から8月上旬にかけて検討し、次の結果を得た。

1. 殺虫剤の土壌処理は、カルボスルファン粒剤(アドバンテージ粒剤)植え穴あたり1g、ベンフラカルブ粒剤(オンコル粒剤)植え穴あたり1gおよびダイアジノン粒剤(ダイアジノン粒剤)植え穴あたり2gの各処理が優れた。

2. 上記3薬剤の処理とクレモナ寒冷紗黒#600被覆の組み合わせによる防除効果は、それぞれの単独処理の場合より高かったが、被覆をすると株重が減少する傾向がみられた。

3. 被覆資材の種類について検討したところ、クレモナ寒冷紗F#1000が優れた。

以上のことから、夏どりチンゲンサイに用いる被覆資材としては、メッシュが1mm前後で遮光率が20%以下のものが適していると考えられる。